



2024年6月

# 葉画家・群馬直美の「葉っぱアーカイブ」Vol.31

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

—♪ 絵と文 群馬直美 ♪—

## ビワの木に棲む《ビワの実》

大病をはさんで2年越して描き上げたのがビワの花の絵。

実も描きたい、と何年も探したけれど、私が出会う木はみんな実を付けていなかった。

或る日、電車に乗っていると一瞬、橙色の粒粒を付けた木が見えた。——ひょって！

まさしく実を付けたビワの木が、駅のホームの端っこに。

ようやく見つけたビワの実に小躍りする私。

けれど高い枝に生っていて手が届かない。

指をくわえて見ていると、「ギイギイ」しゃがれ声の鳥が鳴き、バタバタと羽ばたく音がする。

葉っぱに隠れて鳥の姿は見えないけれど、ときどき、食べかけの実が落ちてくる。

ふと見ると、少し離れた店先にビワの実を付けた枝がたくさん積まれていた。

店の人へ声を掛けると駅員さんにもらったのだという。

「どうぞどうぞ」と、ひと枝折ってくれた。

こうして私は、長年の夢であるビワの実が描けることになった。

実と葉っぱと枝。一番弱かったのは、葉っぱ。

翌日には、葉の色があせてきた。

微妙な色を何色も作り、塗り重ねてゆく。

葉っぱはピカピカ。実にはうっすらうぶ毛が生え白い粉がふいている。

枝はとても毛羽立ち、ひな鳥みたい。

ビワにはもの凄い薬効があるのだそうだ。

あのとき、鳥が落とした実の種には、特に薬効成分があるという。

ひょって、あの鳥は……。

「これをお食べなさい。使いなさい。そして苦痛をやわらげなさい」。

ビワの木も、そこに棲むものも、やさしい。



〈公園文化アートコラム 2nd Season 第四回より抜粋加筆〉

### 《表紙の絵》ビワの実

「葉っぱの中に虹がいっぽい。」

・谷保駅にて2012.6.20採集  
(作品の完成日は 2016年6月12日)  
・紙(ファブリアーノ エキストホワイト極細目)/テンペラ  
・size:161mm×230mm ©Naomi Gumma

#### 群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。<https://www.wood.jp/konoha/>